

仙台市教員プレゼミナール

共に踏み出すはじめの一步 ~あなたを待っている
子供たちがいる~

第7回 「わかる・できる授業をめざして」

令和6年2月21日(水)発行 仙台市教育委員会 教育センター 若手教員支援室

14講座開催！！授業づくりを学ぶ

令和6年2月17日(土)、第7回プレゼミナールが行われました。今回は小・中学校と高等学校、そして養護教諭と、あわせて14会場において指導主事より授業づくりに関する話やICTの機器を活用した演習などが行われました。授業開始時へ向けてのスケジュールの組み立て方から教材研究の方法、1時間の授業の進め方など、新年度のスタートへ向けてどの講座も熱心に学ぶ姿が見られました。授業づくりは受講者の興味関心が高く、78名の参加者となりました。現在の申込者総数は124名になりました。

1「授業づくりの実際①」 2「授業づくりの実際②」

14の会場に分かれて小・中学校、高等学校の授業づくりの実際を学びました。



模擬授業を通して、音読の仕方や詩の読み取り、ペアでの考えの交流の仕方などについて学びました。

小・国語



模擬授業を通して、たし算やかけ算の授業の進め方を考えたり、実際にデジタルコンテンツを使ったりしました。

小・算数



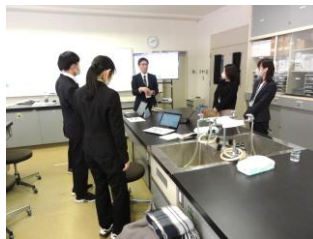
言語活動を意識した活動について考えたり、デジタル教科書を用いた授業づくりなどについて学んだりしました。

小・外国語



生徒側の立場になって授業開き(地理)を実際に体験し、発問や指示、単元デザインについて学びを深めました。

中・社会



自ら考える授業について、課題の提示の仕方や資料の選び方などについてデジタル教科書などを使って学びました。

中・理科



技術科の授業づくりやプログラミングの基本的な考え方など、ロイノートを使って学びを深めました。

中・技術

中学校・高等学校と養護教諭の講座では、少人数を生かし、より実践に結びついた対話型の講座で学びを深めました。受講者からは、自分の思いを伝える場面や質問もあり充実した時間となっていました。



発問・音読・板書などのポイントや、思考ツールを用いながら考えをまとめる方法なども学びました。

中高・国語



発問の種類は生徒の考えを引き出そうとする教師の願いであるなど、授業づくりの大切な点を学びました。

中高・数学



鑑賞の模擬授業を通して、教材研究の方法や効果的なワークシートなどについて学びました。

中高・音楽



最初の自己紹介に数字のレタリングを使う方法など、具体的な授業のイメージや評価の視点などを学びました。

中高・美術



実習の準備についてや、どの場面でICTを活用すると効果的かなど授業づくりの大切なポイントを学びました。

中高・家庭



デジタル教科書やデジタル教材などを実際に使用したり、授業の動画を視聴したりしながら学びを深めました。

中高・英語



地理の授業づくりについて、基本的なことを踏まえながら高校での授業づくりの特徴などを学びました。

高校

<受講者の声>

○ 自分の授業の未熟さをかなり痛感した。しかし、今日の研修でゴールからの逆算を考えると授業は組み立てていかなければならないということが良くわかった。生徒主体の授業を展開するのにかなり不安があったのでこの研修で学んだことを必ず活かしたい。

○ 今まで、年間の授業計画方法や授業の進め方がとても不安でした。今日の講義で、私が不安だった内容をすべてお話いただき、今後の授業の見通しができました。また、今後授業が始まってからも相談にのっていただけるとお話し、安心したのと同時に4月から頑張ろうと思いました。



○ 模擬授業では、子供の興味や意欲を引き出す工夫をたくさん学べました。特に、段々と速度を上げていく音読や、ゲーム性のある音読は、私自身も楽しさを感じられました。指名して発言させる際にも、共感したり、良い点を見つけたりしており、学級内の人間関係形成にもつなげていると思いました。また、ロイノートで国語の授業の中でどのように活用すればよいかも学ぶことができ、勉強になりました。理想の学級や授業について考えることで、子供を褒める視点が増えるというのは新たな気づきでした。4月の着任まで刻一刻と近づいていますが、改めて自分がどんなクラスを作りたいか、どんな子供を育てたいかという思いを大切にしたいと思いました。

○ 授業開きはどうしても不安が残り、どれだけ話を聞いても自分にもできるだろうかと思う事があります。ただ、このような形で、実際に授業開きで用いる教材で授業していただくことで非常に実感がわき、自分自身もやってみたいと思えました。今日の授業開きを受けて、第一に楽しかったとか、このメンバーなら楽しめるという気持ちになりました。そして何より先生が面白くて楽しい人だなあという印象が残り、これからの一年間この先生となら楽しくやっていけそうだと今日突然集まり、行われた授業でも思えて、授業開きの大切さと同時に授業開きの楽しさを感じられました。国語と言う授業は与えられる目標や指導事項も多く、何より授業時数が多いことから、小学校の教科の中でも最も大切な教科であると考えます。そのスタートとして、子供たちの心をつかみつつ、子供たちの良さを引き出し、1年間この先生と一緒に楽しいクラスでやっていきたいと感じることができるよう教育を行っていく事が、理想のクラスに近づく第一歩だと感じ、これからより一層頑張っていきたいと感じました。本日はありがとうございました。

○ 国語の授業開きという設定で模擬授業を受けました。「から」という詩の授業を受けて、詩の音読をして、「国語の音読ってこんなに楽しいのか!!」という気持ちになりました。交代読み、タケノコ読み、先生と勝負して読むなど、様々な読み方のバリエーションで行うことで体を動かしながら詩の内容を頭に入れることができるというのが新鮮でした。授業の際に指導主事の先生が板書をかく子供に対して「書くの早いね」、「字がうまいね」、「書くの早いけどちゃんと読める字だね」など何度も褒める姿が印象的でした。頑張ってる姿が褒められることができるし、行動の強化にもつながるので、私も取り入れたいと思いました。また、国語で養わなければならない能力を指導事項で確認しておくことによって、授業する際の褒める視点を持つことができることがわかりました。どの単元でどのような資質・能力を養わなければならないのかを確認して、わかる・できる授業づくりに努めたいと思います。

○ アイスブレイクから、授業実践まで、楽しんで参加することができました。特に、授業実践では、児童への発問の仕方、児童参加型の授業にするコツなど細かな部分まで学ぶことができました。算数では、子供のつまづきを活かして、学びを深めていくこともできると感じたため、子供がどこにつまづくかを予想し、目の前の子供に合った授業ができる教師になりたいと思いました。最後の、授業のまとめの入り方は、私も大学の模擬授業で良く悩んでいた部分であったため、とても勉強になりました。

○ 外国語がどんな授業か想像できていませんでしたが、今回のプレゼミを通して、外国語の授業のイメージを持つことができました。授業のポイントとしてどの授業でも言えることではありますが、入念な授業準備が大切だと感じました。その授業ではどんな板書を書くのか、キーワードとなる言葉の他にどんな単語を使いそうかなど事前に考えておくことがスムーズに授業を進める一つの方法だと思いました。また、クラスで失敗しても大丈夫、できたらみんなで認めるといった雰囲気づくりも大切だと感じました。子供たちは教師の姿から学ぶと考えるため、外国語の時間だけでなく、日頃からの雰囲気作りを意識していきたいです。4月から不安と楽しみの両方の気持ちがいまはありますが、残りの時間で準備できることをしっかり行い、笑顔で4月を迎えられるようにしたいです。そして、指導主事の先生から「英語はできなくても大丈夫」と言っていただいたので、不安ばかりではなく少しずつ単語を覚えていくなど頑張っていきたいです。



○ 本日のプレゼミでは中学校社会の授業の具体的な方法について学びましたが、社会という教科の性質上、今後生きていく社会で学んだことをどのように使うのかということに意識を置くことが必要だと感じた。個人的な感覚として、社会科の学習においては、その事象を学ぶというよりは、事象を例として物事の起こり方やそれらに対する考え方を学ぶことが求められると考えている。そこを考えながらやっていければと思う。また、ICTツールを活用しながら自分の学びを確かめられるようにすることの必要性を感じた。学ぶ前と学んだあとの考えの変容を生徒自身が感じることで学ぶことの意義や次への意欲を体感できると思う。

○ 最初のアイスブレイクの時間から参考になることはばかりでとても有意義な時間でした。実際授業開きを行うにあたって具体的なことをまだ考えていなかったため、きちんと1時間をどのように過ごすか、いかに理科の授業に興味を持ってもらえるかなど時間配分もしっかり行った上で考えたいと思いました。また、実際に模擬授業をしていただいて、私が中学時代は単なる穴埋め形式で暗記の授業のため理解に乏しかった単元が今回の授業でとても理解しやすくこの教え方がいいなととても思いました。生徒の興味関心を得られて、かつきちんと理解できるような授業ができるように頑張りたいと思いました。ありがとうございました。

○ 本日は模擬授業形式で授業について学ぶことができたため、机間指導や発表の際に生徒の発言をどのように取り上げると学びが深まるのか、グループ学習やペア学習はどのような効果があり、生徒はどのような学びがあるのかということを生徒目線で考えることができました。また、学習指導案を考える際には評価について悩むことも多かったのですが、ねらいと評価が繋がるような評価をしたいと改めて意識することができました。また、他の方の印象に残った授業について伺う中で、授業についての案が広がり、工夫していきたいと強く思いました。

○ 今回のプレゼミナールでは、数学の授業づくりのポイントについて、授業前、授業中、授業後と分けて学ぶことができました。講話の内容はもちろんですが、他の先生方が授業づくりの際に大切にしようと考えていることについても、とても参考になりました。本時の活動を通して、自分一人ではなく、生徒や同僚、先輩の先生方などの他者と授業を作りあげていくことの重要性を実感できたような気がします。

○ 学校教育における音楽の授業は曲を完成させることが最終目的ではなく、題材の目標に基づいて授業を組み立てていくことが大事であるということを知りました。学習指導要領の読み方、知識と技能を結びつけること、どのように評価をするか、具体的な手立てを講じることなど、自分が実際に授業をする立場になったときのヒントをいくつもいただきました。頂いた資料をまた読み返し、教科書を読みながらどんな授業にしたいかを考えたいと思いました。子供が少しでも音楽が好きになれる授業、音楽って面白いと感じる授業を目指したいです。一対一にてたくさんの学びを得ることができました。ありがとうございました。

○ ご指導ありがとうございました。授業づくりについて、全くの想像もできないほど不安を抱えておりましたが、お話しをお聞きし、授業の流れや計画のイメージを持つことができました。実際にオリエンテーションの計画をご指導いただき、今後の授業計画のヒントを学ばせていただきました。教員によって授業の進め方や特色も異なるとお聞きし、自分も、子供たちと一緒に楽しめるような授業づくりをしていきたいと思いました。

○ 春から授業を始めるにあたって、不安なことがたくさんあった。ただ授業の前・中・後でどのようなことに注意すべきか楽しみながら学ぶことができた。今回のゼミナールを通して英語の授業づくりで大事だと感じたことは3つある。まず授業前にはしっかり教材研究を行うことである。現在は電子教科書を用いているので負担は少ないが、使い方や内容は理解しておきたい。次に言語活動を複数組み合わせることである。これによって生徒たちは楽しく授業を受けることができると思うが、あらゆるスキルを使えるように設定したい。また間違いよりも英語を使うことに重点を置いていきたい。最後はさまざまな学習ツールの使用法である。前回のゼミナールでも学習したが、ツールを使えば授業がより発展すると思うので4月までの1か月半で復習しておきたい。

3「養護教諭になること②」

健康教育課の指導主事から、4月からの健康診断などすぐに活用できる内容の話などがありました。



実際に養護教諭が現場で使用しているC4thの機能を使った演習を通して、具体的な学びを深めていました。

養護教諭

<受講者の声>

○ 校務支援システムの使い方を学んで、いよいよ4月から仙台市で勤務する、という実感が湧いてきました。また、4月に入ってからすぐの養護教諭の動きについても教えていただき、完全に0の状態ではなく、心の準備ができて安心しました。健康診断等、特に忙しい4月を迎えるまで、自分のできること、準備しておくべきことを再確認できました。本日はありがとうございました。

○ 4月から仙台市で勤務させていただくにあたり、心配しかなかったのですが、今回の授業で、仙台市独自の健診についてや、校務支援システムの使い方などを丁寧に教えていただくことで、不安が少し解消されました。とても勉強になりました。ありがとうございました。

○ 前回より具体的に業務について学ぶことができました。仙台市独自のシステムが多く、知らないと使えなかったり、実際に経験してみないと分からないことがあったりするため、今回参加することができ、非常に為になりました。ありがとうございました。



プレゼミナールは、次回3月2日(土)が第8回となり最終回となります。これからでも参加申込はできます。関心を持たれた方は是非お申し込みください。次回は「あなたを待っている子供たちがいる」です。小中学校、高等学校の校長先生方からのお話や同期との最後の情報交換もあります。お待ちしております。